



市公式キャラクター
たっけー☆☆

平成27年
8月1日
No. 932

福生市8月のイベント

6日(木)～9日(日)	第65回福生七夕まつり
11日(火)～16日(日)	ヒロシマ・ナガサキ「原爆と人間」パネル展
16日(日)	平和のつどい

まちの写真ニュース

空より青い、市営プール！
9月5日(土)まで開場しています！

今号の主な記事 2面市職員募集 3面第65回福生七夕まつり開催 4面敬老大会にお越しください 5面平成27年度がん検診等予定表 6面青少年の意見発表大会の原稿を募集 7面市民文化教室に参加しませんか 8面「ふっさ子育てまるとくカード」協賛店募集！

「平和のつどい」を開催します

「市民が語る福生・語り継ぐ昭和」

市民が語る福生
語り継ぐ昭和
平成27年8月16日(日)
午後1時30分～午後4時
午後1時00分開場
市民会館小ホール(つつじホール)
※入場無料

28回目の今年は昨年引き続き「市民が語る福生・語り継ぐ昭和」をテーマに、貴重な当時のお話を講演していただきます。今回は、新井勝紘氏に自分史を通して、福生市の戦後70年についてご講演いただく予定です。

また、今年もご好評により福生市出身のジャズシンガー、ダイナさん、サンサンシンガーズをお招きし、懐かしい歌謡曲を会場の皆さんと一緒に歌う演奏会を企画しています。お誘い合わせのうえ、お気軽にご参加ください。

【日時】8月16日(日)午後1時開場、1時30分開演

【場所】市民会館小ホール(つつじホール)

※入場無料

【定員】当日先着260人

▼講演会

【講師】新井勝紘氏

【テーマ】「ふっさっ子の戦後70年～自分史を語る～」

【問合せ】総務課総務係 ☎ 551・1576

▼演奏会

【演奏者】ダイナ氏(ダイナマイト・ミキ改め)、サンサンシンガーズ

【テーマ】「みんなで歌おう昭和の歌」

公民館平和事業

ヒロシマ・ナガサキ「原爆と人間」パネル展

【日程】8月11日(火)～16日(日)午前9時～午後8時

※初日は午後1時から、最終日は午後5時まで。

▼期間中、体験者の話を聴く会を2回行います。参加についてはお問い合わせください。



【場所】市民会館・展示スペース※申込不要。直接会場へお越しください。

【問合せ】公民館事務所 ☎ 552・2118

講演会【戦争体験談】

～九死に一生を得た「五日市線多摩川鉄橋の惨劇」～

五日市線に乗りし機銃掃射の攻撃からあわや一命をとり止めた地元市民の方に、当時の戦争体験を語っていただきます。

【日時】8月22日(土)午後2時～4時

【場所】公民館松林分館

【対象】市内在住・在勤の方

【定員】先着30人

【講師】坂本丁次氏(元東京新聞社会部記者)

【申込み】受付中。公民館松林分館 ☎ 552・3624 へ。



＜お知らせ＞

郷土資料室では「平和のための戦争資料展」を9月27日(日)まで開催しています。詳細は広報ふっさ7月15日号をご覧ください。

福生市表彰条例に基づき、次の方々が7月4日に表彰されました。(表彰順)

「自治功労表彰」

▼市議会議員として多年にわたり市の発展に貢献した功績に基づく表彰

大野悦子氏

「一般表彰」

▼市議会議員として多年にわたり市行政に貢献した功績に基づく表彰

柳川英司氏

▼町会長等として多年にわたり市行政に貢献した功績に基づく表彰

野島康好氏、上野昌平氏、橋爪賢治氏、笹本誠一氏、清水誠二氏、榎本博人氏、井梅泰雄氏

▼国民健康保険運営協議会委員として多年にわたり市行政に貢献した功績に基づく表彰

石川好男氏

福生市表彰式が行われました



表彰を受けた皆さん

▼交通安全推進委員会委員として、多年にわたり市行政に貢献した功績に基づく表彰

荒品祐次氏、大野裕氏

▼町会長、消防団員及び国民健康保険運営協議会委員として多年にわたり市行政に貢献した功績に基づく表彰

石川恵一氏

▼消防団員として多年にわたり市行政に貢献した功績に基づく表彰

本山具達氏

▼市行政の重要性を深く認識し、市道用地として土地を寄附した行為に基づく表彰

田村半十郎氏

▼市行政の重要性を深く認識し、絵画を寄附した行為に基づく表彰

栗原一郎氏

【問合せ】総務課総務係 ☎ 551・1576

今年、戦後70年の節目の年で、例年8月に開催している「平和のつどい」では、これまでに多くの市民の方々の戦争体験、戦後復興期のご苦労等が語られ、今日の平和が多くの人たちの犠牲と血のじむような努力の積み重ねのうえで成り立っていることを感じさせてくれます。

清岩院の前住職の故榎本令秀さんも、加美に旧日本陸軍の爆弾研究所があったこと、そして清岩院が陸軍の宿舎に使用されていたこととお話ししてくれました。昭和20年8月15日に玉音放送が流れ、榎本さんは中学生で終戦の日を迎えました。その夜、空襲に備えて明かりが漏れないようにしていた電灯のカバーを外した時の明るさに、終戦を実感したそうです。

しかし、その翌日に一人の大佐が、研究していた爆弾で自らの命を絶ってしまったこと。復員される前に研究所の所長であった少将から、「この机を君に置いていくから、これからはせいぜい勉強したまえ。」と託されたこと。そんな兵隊さんの話を聞かせてくださいました。この少将は、若い榎本さんに、「机とともに」「新しい日本を築いてくれ。」という想いを託したのでしよう。

たくさんの方々が引き継いできた想いを守るために、この節目の年にぜひ「平和のつどい」に参加し、家族や友人と平和について考えてみてください。

全力投球



福生市長 加藤育男

福生市青少年海外派遣事業出発式にて

平和のつどい